

加藤智美

巻頭インタビュー リーダーシップの研究



かとう・ともみ ●一九八〇(昭和五十五年)、神奈川県葉山町生まれ。神奈川県工学部応用化学科卒業。ダイビングショップの社員を経験した後に、個人のダイビングスクール「泡美」を設立。現在、葉山ライフセービングクラブ代表を務めるとともに、「海の案内人」として活動中。

私が活躍する場所は、夏の海――。

海水浴に訪れた人々の安全を守るライフセーバーをやっている。水辺での悲しい事故を未然に防ぐのが私たちの一番の使命だ。

真夏の海水浴は楽しいものであるが、

同時に危険と隣り合わせであることを忘れてはならない。人間は洗面器一杯の水でも溺死する。過信しないことが大切なのだ。大量のアルコールを摂取した後や、睡眠不足の状態で海に入るのはできれば謹んでもらいたい。しかし

同時に危険と隣り合わせであることを忘れてはならない。人間は洗面器一杯の水でも溺死する。過信しないことが大切なのだ。大量のアルコールを摂取した後や、睡眠不足の状態で海に入るのはできれば謹んでもらいたい。しかし

どんなに注意していても、波にさらわれるなど不測の事態のなかで溺れてしまう場合がある。そんなときに救出に向かうのが我々ライフセーバーで、「レスキューボード」や「レスキューチューブ」などの救命器具を持って現場に

どんなに注意していても、波にさらわれるなど不測の事態のなかで溺れてしまう場合がある。そんなときに救出に向かうのが我々ライフセーバーで、「レスキューボード」や「レスキューチューブ」などの救命器具を持って現場に

行く。

私が代表を務める「葉山ライフセービングクラブ」が担当するのは、神奈川県三浦半島に位置する一色海岸、森戸海岸、長者ヶ崎海岸の三つの浜。砂浜と磯場が入り組み変化に富んでい

海での悲しい事故を未然に防ぐ

るところが葉山の海の特徴だ。葉山町から受託契約をしたNPO法人葉山ウエイブスアンドサンドとの協働というかたちで夏季監視活動を行っている。

メンバーは例年、男女約七〇名が集まる。大半がボランティアでの参加で、年齢や職業はさまざま。ベテランライフセーバーの社会人もいれば、ライフセービング部などに所属する大学生もいる。なかには泳ぎが苦手なまったくの初心者や高齢の方もいるが、そうした人たちの参加も大歓迎だ。それぞれのレベルに見合った役割を担当してもらおう。誤解されがちだが、ライフ

セービング活動は必ずしもマツチヨな若者だけのものではないのだ。

監視活動の具体的中身は、「放送・声かけなどでの注意喚起」「ガラスや流木などの危険物の除去」「ビーチ・沖の見回り」など。それを、①本部（監視所内）②パトロール③ステーション（監視台）④待機などの持ち場をローテーションで回しながら行っていく。



さささささささささささささ

このローテーションを管理したり、その日の監視活動の具体的な方針等を決めたりするのが「監視長」の役目。つまり、各海岸における現場のリーダーだ。私も二年前と三年前の夏季期間、一色海岸の監視長をした経験がある。苦勞も多かったが、それだけ夏が終わった時の達成感は大きかった。

監視長がたいへんなのは、その日集まった一〇名前後のメンバーをうまくまとめ機能的に監視活動を行わなければならぬ点にある。自分よりもライフセーバーとしての実績がある年配の社会人もいれば、経験がまだ浅い

ランライフセーバーが別の方法を主張したりする場合だ。あるいは沖で海水浴客が乗った手漕ぎボートが転覆したときに、レスキューボードで救助に向かうのか、それともエンジン付きのボートを持つているところに連絡して救助を要請すべきかといった話で意見が対立する場合もある。しかしライフセービングには「これが正解」というものはない。より最適な方法を選ぶべきではあるが、それよりも大切なのはリーダーである監視長が周囲の意見に振り回されて右往左往しないことである。一刻も早い人命救助を遂行するうえで

大学生もいる。そうしたメンバーの「混在チーム」を監視長はある一定方向に引っ張っていかなければならない。ときにはメンバーとの意見の違いは、その食いの違いから衝突することもある。例えばその日の天候や混み具合をみて考えた監視活動のやり方に対し、経験豊富なベテ

情からすると大学生の方が今の時点ではベストなのだ。年に数回週末しか顔を出せない社会人よりも、監視長というポジションに淡い憧れを抱きつつ一年生から頑張ってきた大学生に期待したいという気持ちがある。

もちろん監視長をまかせるのは、大学生なら誰でもいいというわけではない。「最低限の責任を果たせる人」「信頼関係を築ける人」であるのが最低限の条件だ。私の経験から言っても、「レスキュー技術が優れていたり、筋力がある人」「監視長」という図式は成立しないと思う。下の人の立場になって物事を考えられるかどうか、必要な時にしっかりと判断し指示が出せるかどうか、リーダーとして問われる資質だ。そして私は、監視長をフォローする

「監視業務統括責任者」という役割に昨年から就いている。三人の監視長とのコミュニケーションを密にしなが、楽しく海辺で遊べる環境を一緒に整えていきたい。

も、それだけは絶対に避けなければならない。私が監視長をしていた二年間、ヒヤリとする出来事は何度もあったが、大きな事故を一度も発生させずにすんだのはこうした考え方を大事にしてきたからとも言える。

監視長に問われる資質

実は葉山ライフセービングクラブでは近年、監視長を大学生にまかせる方針を取っている。今年の夏も三つの海岸の監視長を法政大と中央大の学生が担当することが決まっている。「なぜ社会人ではなく学生なのか」と思われるかもしれないが、私たちのクラブの実

葉山ライフセービングクラブでは、①水辺の悲しい事故を防ぎ尊い生命を守る②地元葉山でのライフセービング活動の普及と実践、という二つを目的として掲げている。仲間と協力しながら「事故ゼロ」を目指すのがメンバーの共通した意識である。自分たちが愛する海で悲しい事故を起こさせないために、今年も精一杯ライフセービング活動に取り組んでいきたい。夏はこれからが本番だ。

（談）